

完了後の評価個表

| | |
|------|----|
| 整理番号 | 11 |
|------|----|

| | | | |
|---------|---------------------------|---------|-------------------|
| 事業名 | 森林環境保全整備事業 | 都道府県 | 岐阜県 |
| 地域（地区）名 | 飛騨川 ^{ひだがわ} | 事業実施主体 | 県、市町村、森林組合、森林所有者等 |
| 関係市町村 | 下呂市ほか1市6町1村 ^{げろ} | 管理主体 | 県、市町村、森林組合、森林所有者等 |
| 事業実施期間 | H23年度～H28年度（6年間） | 完了後経過年数 | 5年 |

| | |
|-----------------|---|
| <p>事業の概要・目的</p> | <p>本地区は、岐阜県の中央東部に位置し、下呂市、美濃加茂市、白川町、七宗町、八百津町、川辺町、富加町、坂祝町、東白川村の2市6町1村から構成されている。</p> <p>本地区の総土地面積 154 千 ha のうち、森林面積は 133 千 ha（森林率 86%）、対象民有林は 108 千 ha（森林全体の 81%）となっている。</p> <p>森林面積のうち、本地区の樹種別面積割合はスギが 11.9%、ヒノキ 46.5%と、県全体（スギ：16.5%、ヒノキ：27.5%）と比較するとヒノキの割合が高くなっている。また、本地区の天然林の割合 39.3%は県全体 51.1%に比べて低いことも特徴である。</p> <p>また、計画区の人工林は 12 齢級をピークとした構成となっており、適期の森林整備が求められている。</p> <p>本地区も全国の状況と同様に林業従事者の高齢化等、厳しい状況にあり、森林の整備状況は低調で、森林が本来持つ国土保全、水源涵養等の公益的機能を十分に発揮できていない。一方、近年県内で整備されている合板工場や大型製材工場の稼働により、県内の木材需要が高まり、本地域においても豊富な森林資源を活かした安定的な木材供給への機運が高まっている。</p> <p>このような状況を踏まえて、本地区では、飛騨川地域森林計画に基づき、より効率的に施業を実施するための基盤整備や、高まる木材需要に対応するために意欲と能力のある林業事業者による集約化された計画的な森林施業を促進しているところである。</p> <p>本事業は、森林の有する多面的機能の維持・増進を図るために、森林計画等に基づく、造林、保育、間伐等の適切な森林整備を実施したものである。</p> <p>・主な事業内容 森林整備 7,177ha 人工造林、鳥獣害防止施設、下刈り、除伐、間伐等</p> <p>・総事業費 2,981,699 千円（税抜き 2,797,578 千円） （平成 22 年度の評価時点 4,379,000 千円）</p> |
|-----------------|---|

| | |
|--------------------------------|--|
| <p>① 費用対効果分析の算定基礎となった要因の変化</p> | <p>令和4年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>なお、事前評価で算出した総便益及び総費用と完了後の評価で算出した総便益及び総費用との差異については、労務単価の上昇や優先度が高い箇所から実行したため事業量が減少した。さらに、保育間伐においては資源の充実から、伐採する立木が大径化したことにより出材量が増加し、資源の有効活用を図るための搬出に伴う路網作設の費用がかかり増しとなったことが原因と考えられる。</p> <p>総便益（B）27,713,530千円（平成22年度の評価時点31,495,853千円※） 総費用（C）5,345,547千円（平成22年度の評価時点5,526,169千円※） 分析結果（B／C） 5.18（平成22年度の評価時点 5.69 ※）</p> |
| <p>② 事業効果の発現状況</p> | <p>更新、保育によって7,177haの森林が整備され、水源涵養や山地保全等といった森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。また、列状間伐の実施や高性能林業機械の使用等により効率的な作業が行われ、木材が安定的に供給された。</p> <p>森林整備事業の発注により雇用の場が提供され、地域の社会経済に貢献した。</p> |
| <p>③ 事業により整備された施設の管理状況</p> | <p>整備された森林は、森林経営計画等により継続して適切に管理しており、良好な管理状況にある。</p> |
| <p>④ 事業実施による環境の変化</p> | <p>森林整備の実施により良好な森林が形成され、水源涵養や山地保全、林産物の安定供給等の多面的機能が発揮されている。</p> |
| <p>⑤ 社会経済情勢の変化</p> | <p>本地区の林業就業者数は、平成22年度1,166人から令和3年度は916人に減少している。</p> <p>こうした状況の中、林業の現場では、効率的で生産性の高い高性能林業機械を含む機械作業システムの導入が進められている。</p> <p>また、県内では大規模な木材加工施設やバイオマス発電施設等が稼働し、木材需要が拡大しており、木材の安定的な供給を通じて地域経済の振興に寄与していくことが求められている。</p> |
| <p>⑥ 今後の課題等</p> | <p>森林の有する公益的機能を高度に発揮させるため、伐採と造林の一貫作業や植え付け効率の向上等の効果が期待されるコンテナ苗の導入、保育作業の省力化など低コストで効率的な作業システムの確立のほか、有用広葉樹の天然更新木を活用した針広混交林への誘導等多様な森林整備を行うことが重要である。このため、効率的な森林整備の実施に必要な耐久性及び利便性に富む路網整備に取り組むとともに、森林所有者に対する森林施業実施の普及啓発等を行い、積極的な森林施業の実施を促進する必要がある。</p> <p>地元の意見： （岐阜県）</p> <p>森林整備事業実施によって水源涵養や山地保全等の公益的機能の発揮に寄与している。今後も森林資源の造成や県土の保全のために森林整備が必要である。</p> |

| | |
|------|--|
| 評価結果 | <p>必要性：間伐等の森林整備等を通じて、水源涵養機能及び山地保全等が図られ、地域における水源地や、土砂の流出防止等に重要な役割を果たしており、事業の必要性は認められる。</p> <p>効率性：森林整備では現地の状況を踏まえた効率的な作業システムにより、また、路網整備では集材効率の悪い箇所无路網を開設することにより、コスト削減が図られており、費用便益分析の結果からも効率性が認められる。</p> <p>有効性：森林資源の現況や路網の整備状況を踏まえた計画的な事業の実施により、森林の有する多面的機能が向上し、引き続き、その効果が継続されていることから、事業の有効性が認められる。</p> |
|------|--|

※平成 22 年度評価時点における数値については、消費税を含んだ数値である。

便 益 集 計 表

(森林整備事業)

事業名：森林環境保全整備事業

都道府県名：岐阜県

地域(地区)名：^{ひだがわ}飛騨川

(単位：千円)

| 大 区 分 | 中 区 分 | 評 価 額 | 備 考 |
|-----------------------|--|------------|-----|
| 水源涵養 ^{かん} 便益 | 洪水防止便益 | 4,491,862 | |
| | 流域貯水便益 | 1,609,666 | |
| | 水質浄化便益 | 6,050,123 | |
| 山地保全便益 | 土砂流出防止便益 | 3,378,877 | |
| 環境保全便益 | 炭素固定便益 | 7,458,513 | |
| 木材生産等便益 | 木材生産確保・増進便益 | 4,724,489 | |
| 総 便 益 (B) | | 27,713,530 | |
| 総 費 用 (C) | | 5,345,547 | |
| 費用便益比 | $B \div C = \frac{27,713,530}{5,345,547} = 5.18$ | | |

